

守らねば失う自然

子供たちに託す土の未来

地球温暖化や土壌劣化

に対する対策は政府や農家にばかりまかせてはいられない。私たちの次の

世代の生存に関わる問題だからである。そのため土壌教育は非常に重要な課題となる。

ところが文部科学省の小・中・高等学校教育に

対する学習指導要領では平成元年度の改訂において植物の成長を学ぶ単元で土が消滅し、さらに平成10年には「土を発芽の条件や成長の要因として扱わないこと」と記され

ている。

指導要領から土消滅

そのため、平成の時代には植物の成長に及ぼす土の性質を学ぶ機会がめっきり減少した（平井英明「教科書から土が消えている」科学85巻11号、2015）。

私もこのことに関連し帯広市の小・中・高等学校と大学の生徒・学生を対象にアンケート調査を行ったことがあるが、土に関する関心は小学校

に著しく減少していた。

これは普通教育において土に関する教育が欠如していることを反映したものと考えられる。文部科学省は土に関する知識なしに農業生産や環境保全が可能であると考えているのであろうか。

ただし、農業高校および帯広畜産大学（別科を含む）では土に関する関心が高かった。また、帯広の地域性を反映したのかもしいないが、小学生は遊びや運動の場として土に触れる機会が多い

ので土への関心が高かったものと考えられる。

清浄野菜の危険性

小学生が土に対して高い関心を示した反面、土を「きたないもの」とみなす意識も高かった。これは親や教員の過剰な衛生意識に起因している。

0157による食中毒が発生し、人々の間に恐怖を呼び起こしたが、0157は本来繁殖力の弱い菌であり、多様な菌と共存している環境では単独で蔓延できない。しか